

児童発達支援及び放課後等デイサービス事業者の自己評価等の公表に係る届出書

提出日	R6.3.31
-----	---------

法人名	小樽市(指定管理者:社会福祉法人後志報恩会)
事業所番号	152001442
事業所名	小樽市さくら学園
障害福祉サービス名	児童発達支援センター
記載者職氏名	さくら学園施設長 臼屋理恵(小樽市こども未来部こども福祉課 こども福祉グループ 主査 三浦 文)
電話番号	0134-54-7752(小樽市:0134-32-4111)
Eメール	kodomo-hukusi@city.otaru.lg.jp

1. 自己評価等及び公表の実施状況

(1) 自己評価等の実施期間

実施期間	2024	年	3	月	4	日
~	2024	年	3	月	22	日

(2) 評価内容についての公表日

公表日	2024	年	3	月	31	日
-----	------	---	---	---	----	---

2. 公表の手段

- 事業所のホームページ(掲載している場合はURLを記載してください)

<https://srbshouon.jp/category/shintyaku/>

- その他の媒体

事業所便り(園便り)

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 31 日

事業所名:小樽市さくら学園

保護者等数(児童数) 27

回収数 20

割合 74%

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20						
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17	2		1	子どもの人数に、職員が足りていないと思う。	お子様4人に対して保育士又は児童指導員1名の基準配置の職員に加え、療育時間には保育士2名及び児童指導員を配置し個別的な関わりに対応ができるよう職員体制を厚くしております。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境※1になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	18	1			1		お子様が見て分かりやすいイラストを用いた手順書やポスターの活用、広い空間を仕切るなど環境の構造化に努め、太陽光が苦手なお子様には、カーテンで光を遮るなどの対応をしております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	20						
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画※2が作成されているか	19	1					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18	1			1		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	3				しっかり先生が説明をしてくれている。	
	8 活動プログラム※3が固定化しないよう工夫されているか	17	2			1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	1	6		3	コロナ開けなので、むりだったと思います(施設がやらないのではなく)。	地域の幼稚園との交流に対する保護者の皆さまの期待の大きさが分かる結果でした。新型コロナウイルスが5類に分類をされて2年目を迎えますことから、地域の幼稚園とも相談をさせていただきたいと考えております。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19						
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	19						

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング※4等)が行われているか	13	3	1	2		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18	1		1		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19			1	新しい先生だと育児の相談に関してはあまりない。	チームでの支援に努め、どのような相談にも対応ができるよう体制を整えていきます。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	14	4	1	1		親の会与学園が協力して役員会を毎月、親の会全体会として「学び合いの場」を年間9回実施をさせていただきましたが、今後も内容を吟味させていただきなど、保護者の皆様が期待感を持って交流をしていただける場を一緒に考えていきたいと思います。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19	1				
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか					気になったことがあっても、大体はこちらから聞く前に連絡をくれていました。	
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	18	1		1		
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	20						
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	18	1	1			年度始めの保護者会にて、各マニュアルについての説明をさせていただきましたが、今後は掲示にも努めます。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	19		1		子どもからも「今日は避難訓練があったよ」と、聞くことがあり、子どもにも伝わりやすいように進めてくれているのだと思いました。	令和5年度は火災を想定した避難訓練を10回、地震を想定しての避難訓練を2回実施しております。地域にあります消防署から職員の方が消防車で来て下さる訓練も実施しております。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	18	1	1		とても楽しみに通っています。	
	23 事業所の支援に満足しているか	18	1		1	とても満足をしています。	

この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業者向け 小樽市さくら学園児童発達支援自己評価表

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2 職員配置数は適切であるか	○			配置基準の児童指導員・保育士に加え加配の保育士・児童指導員を配置し支援の充実を図っている。配置数は適切であり、個別的な関わりが必要なお子さんへの対応も行うことができていた。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境※1になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			視覚支援など児童の発達や障害特性に合わせた環境作りに配慮している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			毎日専門の業者による清掃を行っている。子ども達が遊ぶおもちゃの消毒による衛生管理を実施している。定員に対して広めの施設、広い園庭と恵まれた環境となっている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			月2回の職員会議、責任者会議の開催に加え、必要に応じたクラス会議等の実施。児童発達支援計画作成と評価のための会議の実施等、広く職員が参画している。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者に日常の電話や連絡帳、個別の面談等による保護者の意向の把握に努めている。保護者の声は何よりも貴重な意見として受け止め、業務の改善等に役立てるよう努力している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			当学園の運営を受託している社会福祉法人後志報恩会のホームページで公開予定(3月中に実施)
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			令和5年度はオンラインによる研修と、対面式の研修を組み合わせることで研修を受けることができていた。オンラインによる研修は移動時間を取れないことや、複数の職員で研修を受けることができ大きな利点と考えている。法人や施設内での研修も同様であった。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			児童の状態を丁寧に把握し、それに基づき児童発達支援計画を作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			施設独自のアセスメントを作成し、それに基づき児童発達支援計画を作成している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			新型コロナの関係で大人数での行事の見直しを実施した結果、大きな集団が苦手なお子さんが参加しやすいという保護者の意見から、行事によっては少人数で行う形が定着するなど新しい形での実施となっている。季節ごとの活動、週ごとの活動プログラム(週案)の作成などにより多様な活動ができるよう計画的に取り組んでいる。

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	○			担当者を中心に、児童発達支援管理責任者など必要に応じて複数のスタッフが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			直接の引き継ぎ、書面による情報提供を組み合わせ、しっかりと情報共有できるように努力している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			直接の引き継ぎ、書面による情報提供を組み合わせ、しっかりと情報共有できるように努力している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			小樽市内の児童発達支援事業所が参加する自立支援協議会(こども支援部会)への参加、研修参加などを積極的に行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			コロナウイルス感染症が5類に分類されたが、令和5年度は残念ながら未実施である。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会(障害児者支援協議会幹事会・福祉いどばた会議・こども支援部会)や医療的ケア児及びその家族に対する支援検討会議(オンライン)への参加、小樽ファミリーサポートセンターへの講師派遣他実施している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			日々の連絡帳、電話連絡、個別面談等、丁寧に行い共通理解に努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童の発達状況に沿った大変細やかな児童発達支援計画が作成されており、原案を提示、保護者の意見も取り入れた上で同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		半年ごとの定期的な面談に加え、日常的に連絡を取り合い、必要に応じた面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		令和5年度、年間計画で10回の親の会、保護者同士の交流会等を予定し、9回実施をしている。
	36	子どもや保護者からの苦情について、対応の体勢を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月1回の園便りの発行をベースに必要なに応じて文書や一斉送信ができる安心メールを活用して情報を発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		入園時にも個人情報の取り扱いに関しては保護者に説明している。職員にも十分注意するよう会議等を通じて周知徹底に努めている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		最も重要な配慮の一つと考え取り組んでいる。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			
非常時などの対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		月1回の避難訓練など繰り返し経験することで実際に緊急事態が起きた時に児童・職員ともに適切な対応が出来るよう訓練を実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		こどもの安全のために必ず確認しなければならない基本情報として提供いただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		給食・おやつを提供するため、必ずアレルギーについては把握し、医師の指示に基づく対応をしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		法人内研修や外部研修への参加、また毎月2回行っている職員会議で行うケース検討や虐待防止に関する会議を通して、自分たちの支援の振り返りを行うなど虐待に対する意識を高めることに努めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		